

日本書籍考

完

小林

行
加
309



12
門加 2
辨 09
卷

日本書籍考

舊事記

推古天皇時聖德太子

蘇我馬子作之十卷アリ 先神

代ノ事ヲ記シ其次ニ神武天皇ヨリ

三十四代推古天皇ノ時ノ事ニテラ

記セリ

古事記 三卷アリコレモ神代ヨリ

推古天皇ノ時分ニテヲ記セリ大

納言大安萬侶カ作ナリ

日本紀 三十卷アリ舎人親王撰之

書



初ノ二卷ニ天神七代地神五代ノ
事ヲ記セリ神代ノ卷是ナリ第三ノ
卷ヨリ以後ニ神武天皇ヨリ持統
天皇マテ四十一代ノ事ヲ記セリ
舊事記 古事記 日本紀ヲ三部
ノ本書ト各ツク其内日本紀尤委
古語拾遺 忌部廣成カ作ナリ神代
ノ事ヲ記セリ三部 本書ニ載サル
事モアリ一卷アルト二卷アルト
二通アリ

續日本紀 四十卷アリ菅野真道上

藤原繼繩ト二人シテ作之人皇四十
二代文武天皇ヨリ人皇五十代桓
武天皇延暦十一年マテノ事ヲ記セリ

日本後記 四十卷アリ春澄善繩

作之桓武天皇延暦十一年ヨリ淳
和天皇マテノ事ヲ記セリ此書中比
ヨリ七テ世ニ傳ラス

續日本後紀 二十卷アリ仁明天

皇一代ノ事ヲ記セリ忠仁公ノ作也

文德實錄

十卷アリ文德天皇一代

ノ事ヲ記セリ昭宣公ノ作也

三代實錄

五十卷アリ清和天皇

陽成天皇光孝天皇三代ノ事ヲ記

セリ左大臣藤原時平大藏善行兩

人ノ作ナリ

類聚國史

二百卷アリ菅丞相ノ作

ナリ日本紀ヨリ三代實錄ニテノ事

ヲ聚テ部類ヲ分テ考ヘ安キヤウニ

シタル言也中比ヨリ多ク失テ今僅

ニ二十卷アマリ残レリ

扶桑畧記

阿闍梨皇圓カ作也字

多天皇ヨリ以後後朱雀ノ比ニテ代

代ノ事アラクト記タリ今多亡テ全

部傳ラス

律

十二卷アリ淡海公ノ作也罪アル

者ノ輕重ヲハカリテ法度ヲ定タル書

ナリ

令

十卷アリ淡海公ノ作也禁中并

國國諸役万事ノ差差ヲ定テ下知

せしムル事ヲ記せり清原夏野ト云人
令ノ註ヲ作ル義解ト号ス直本ト云
人註ヲ作ル集解ト号ス合テ三十卷
ハカリアリ

格

禁中代代ノ下知條條其時時ニ
ヨリテ異同損益アル事ヲ書集タリ
嵯峨ノ天皇ノ時ノ格ヲ弘仁格ト号ス
十卷アリ藤原冬嗣作之清和天
皇ノ時ノ格ヲ八身觀格ト号ス十二
卷アリ藤原氏宗作之醍醐ノ天皇

ノ時ノ格ヲ八延喜格ト号ス十卷アリ
藤原時平作之此三代ノ格ヲ集テ一
部トスルヲ類聚三代格ト名ツケテ
三十卷アリ今少々残テ全部ツ
タハラス

延

喜式 五十卷アリ延喜帝ノ時

左大臣藤原忠平作之禁中 年中
儀式百官臨時ノ作法其外國國
ノ恒式ヲ詳ニ記せリコレヨリ 前前
弘仁格身觀式ナト云モアレ延喜

式カモ詳也右律令格式ハ政務ノ為
肝要ノ書物ナリ令格式ニ背モノヲ律
ヲ以テ罪ヲタシ法度ニ行フ昔ハ明
法道トテ一流ノ學者家ヲ立テ律
令格式ヲ讀習ヒ政事ヲ沙汰セリ
内裏式 藤原冬嗣ノ作ナリ三卷アリ
禁中ノ儀式ヲアラクト記セリ
侍中郡要 橘廣相等カ作也藏人
ノ役ノ事ヲ委ク記タリ

風土記 六十餘卷アリ日本六十

六ヶ國ノ事ヲ記セリ諸國ノ山川寺
社名所舊跡年貢土産等ノ事ニテ
詳ニ載タリ淡海公ノ時分ヨリ此書
ヲ集テ延喜帝ノ時成就セリ近代
傳ラス

公卿補任 五十卷ハカリアリ神武天
皇ヨリ以來代代大臣攝政開白以下
宰相三位以上ノ公卿ニ昇ホトノ人殘
ス書載タリ其人ノ官位ニ昇ル年
月日ニテ書付タリ天正ノ比迄タシ

カニ有之其以後モ書補アリトナニ雲客補
任將軍補任ナト云書モアリト聞ユレト
モ今ハ傳ラス

姓氏録

萬多親王ノ作ナリ人々ノ姓
氏ノ起ヲ記セリ日本ノ氏ノ始凡三ノア
リ神ノ子孫ヲ神別ト云中臣忌部藤
原等ノ類是也神武ヨリ以後代々帝
王ノ子孫ヲ皇別ト云源氏平氏ノ類
是也異國ヨリ日本へ渡リタル者ノ子
孫ヲ蕃別ト云秦氏丹家等ノ類是
也此三種ヨリ子孫兄弟分レテ類多
ク氏ヒロカリハヒコル此次第ノ分レテ此
書ニ委ク載タリ大部ノ書ト聞ユレト今
ハ其目錄ハカリ殘リタリ

本諸家系圖 藤原公定書集タリ

西宮記

二十卷ハカリアリ 西宮左太
臣高明公作也禁中^{ノミヤ}中恒例臨時
ノ作法ヲ記セリ

北山抄

大納言藤原公任ノ作也十卷
餘アリ是モ禁中ノ作法ヲ記セリ

江次第

二十卷餘アリ大江^{権房}ノ作

ナリ正月ヨリ十二月ニ至マテ禁中

恒例ノ作法ノ次第ヲ詳記セリ其

外臨時ノ事ヲモ載タリ

日次記

二百餘卷アリ村上天皇ノ比

ヨリ^{セツ}撰家代々ノ記録トモヲ^テ数多取

集テ一部トスル者ナリ二条殿ノ家

ノ秘書也

明月記

六十卷餘アリ藤原定家

ノ日記ナリ

山槐記

中山内大臣忠親ノ日記ナリ

禁秘抄

順徳院ノ御作也禁中ノ故

實^シヲ記セリ一卷アリ

公事根源

一条大閤^{カキ}兼良ノ作也禁

年中ノ作法ヲアラケト記セリ

神皇正統記

北島^{ホシノ}ノ准后^ノ親房ノ作

也一卷アリ日本帝王代々後醍醐天

皇ノ時マテノ事ヲイカニモアラケト記

セリ

職原

二卷アリ是モ親房ノ作也官

位ノ事ヲ記セリ

百寮訓要 二条關白良基ヨシモトノ作也

官位ノ事ヲアラクト記セリ一卷アリ

御楔記 二条關白良基ノ作也帝王

即位ノ後河原へ行幸アリテ御楔

作法アリ其事ヲ記セリ一卷アリ又

大嘗會ノ事ヲ記セル書一卷アリ同

人ノ作也是ハ即位ノ後ノ大ナル御祭

ナリ

即位職掌録 宇多ヒタノ天皇即位ノ比ヨリ

以來代代帝王即位ノ時役人ヲ記セ
ル書ナリ

釋日本紀 日本紀ノ註ナリ 諸人ノ註

ヲ集テ一部トス

元元集 十卷餘アリ 親房ノ作也神

道ノ事ヲ記セリ

神代纂疏 三卷アリ 兼良トヨシノ作也神

代卷ノ註ナリ

名法要集 神道ノ事ヲ記セリト部

ノ家ノ秘書ナリ一卷アリ

諸社記 二十一社ノ事ヲアラケト記セ

リ親房ノ作ナリ一卷アリ

中臣枝 神代ヨリ傳ハル祝詞ナリ神

道ノ秘傳ナリ

麗氣記 神書ナリ

寶基本記 神書ナリ

神風和記 神書ナリ

神代口決 神代卷ノ註ナリ忌部

ノ家ノ説ナリ

懷風藻 一卷アリ日本ニテ詩ヲ集夕

ル書物ノ初ナリ大友ノ皇子大津皇子

文武天皇淡海公其外歴々ノ詩ヲ載

タリ

經國集 懷風藻以後ノ詩文集タル書

物ナリ今僅ニ殘テ全部傳ハラヌ

凌雲集 一卷アリ詩ヲ集タル書物也

文華秀麗 一卷アリ嵯峨天皇淳和

天皇其外歴々ノ詩ヲ載タリ

管家文草

管丞相ノ作ル詩文トモテ

集タリ十卷アリ筑紫へ下向以後作

レル詩文ヲハ管家後集ト名ツク

都氏文集

都良香カ詩文ヲ集タリ

良香ハ名高キ學者ナリ管丞相年

ワカキ時良香ヲ師トセリ

江吏部集

大江匡衡カ詩文ヲ集タリ

本朝文粹

藤原明衡カ作ナリ日本

ニテ歴々ノ詩文ヲ集タリ十四卷アリ

續本朝文粹

本朝文粹以後ノ詩文ヲ

集タリ十四卷アリ

朝野群載

詩文其外禁中方ノ故實

ヲ記セリ三善ノ為康カ作ナリ三十

卷アリ

和名抄

源順カ作ナリ二十卷アリ

文字トモテ書集テ類ヲ分チ註ヲ作シ

無題詩

法性寺ノ關白忠通其外凡

人餘リノ詩トモテ集タリ三卷アリ

朗詠

藤原公任ノ作ナリ唐日本ノ詩

文ノ句ヲ摘テ類ヲ分テ集タリ昔ハ節

ヲツケテ歌ヒタリ

新撰朗詠

藤原基俊力作ナリ朗詠

ノ外ノ詩文ノ句ヲ集タリ

江談

江家ノ輩トモカラノ作ナリ

詩文ノ物語

ヲ集タリ

古事談

種ヒク種ノ物語ヲ集タル書也六

卷アリ

續古事談

古事談ノ外ノ物語ヲ書

集タルコレモ六卷アリ

古今著聞集

橘季茂チキノ力作也二十

卷アリ種々ノ昔物語シキヲ多ク書集アヒダタリ

宇治大納言物語

源隆國タカクニヲ宇治ノ大

納言ト云此人宇治ニ居テ諸人ノ物

語ヲ聞テ書集タリ面白事モアリヲ

カレキ事モアリ

今昔物語

是モ種々ノ物語ヲ書集

タリ大部ト小部ト兩通アリ

十訓抄

人ノ訓ニ成ヘキ事十ヶ條

ヲアケテ其品々ニツキテ物語ヲ書

集タリ

東齊隨筆

一卷アリ

是モ物語ヲ書アツメタリ

水鑿

三卷アリ神武天皇ヨリ仁明

天皇マテ五十四代ノ事ヲアラクト書カキ載ニタリ

世継

三卷アリ人王五十五代文徳天

皇ヨリ六十九代後朱雀院ノ時マテノ事ヲアラクト記シテ其間セツケ攝家代々

ノ事ヲモ載タリ此書ノ一名ヲ大鑿トモ云

榮花物語

赤染右衛門アカソメノエカ作也字多

天皇ヨリ後朱雀院ノ比マテ帝王中宮ヒツケ攝家ノ事ヲ載タリ御堂ミタウ開白道長ノ威勢榮花ノ事ヲ委記セリ四十帖アリ

續世継

榮花物語ノ以後ヲ十代分

リアラクト書載タリ二十卷ハカリアリ

増監 後鳥羽院ヨリ後醍醐ノ時分一

テアラフク書載タリ其内ニ關東武家ノ事ヲモ少ク記セリ

革命 年号改元ノ事ヲ考ヘタル勘文ナリ三善家ノ書ナリ

六代勝事記 高倉安徳後鳥羽土御門順徳院後堀川六代ノ事ヲアラフクト記セリ

太子傳曆 聖徳太子一代ノ事ヲ記タル書也二卷アリ

拾芥 東山尤府ノ作也六卷アリ種々ノ細カナル事ヲ類シ分テ書集タリ

壺囊集 僧俗ノ物語ヲ書集タリ十卷餘アリ

簞簞内傳 安倍晴明カ作ナリ右術ノ書也

元亨釋書 東福寺ノ僧虎關作也三十卷アリ日本僧ノ傳記ヲ書集リ

釋家官班記 一卷アリ尊圓ノ作也出家官位ノ事ヲ記セリ

性靈集

弘法一代ノ詩文ヲ書集タリ

日工集

南禪寺ノ僧義堂カ日記ナリ

二卷アリ

善隣國寶記

相國寺ノ僧瑞溪カ作

ナリ日本國ト中華并朝鮮ト使者

并ニ書簡往來ノ事ヲ記セリ一卷アリ

陸奥話記

後冷泉院ノ時奥羽ノ安

部貞任宗任ヲ源頼義ニ作テ追討セ

ラル頼義并其子義家又ク奥羽退

留シ合戰數度ニ及フ初ハ貞任強

頼義父子僅ニ七騎ニ打ナサレタル事

アリ其後重テ兵ヲアツメテ終貞任

ヲ亡シ宗任ヲ生捕其合戰ノ間九年

アリト云説モアリ又十二年ニ及フト云

説モアリ此合戰ノ事ヲ記セル物語也

一卷アリ

後三年合戰草子

是ハ奥州ノ清原武

衡家衡ヲ源義家打平タル事ヲ繪

ニ書タル草子ナリ三卷アリ初貞任

宗任カ乱ノ時ニ出羽國ノ住人清原武

則ト云者頼義ニ從テ軍忠アリ頼義
義家上洛ノ時武則ニ命メ出羽奥守
守ラシム頼義卒去ノ後義家陸奥守
ニテリテ入國ノ時武則カ子武衡家衡
驕テ下知ニ從ハス義家イカリテ是ヲ
攻テ三年ノ間出羽奥州ノ内ニテ合戦
數度ニ及テ終武衡家衡ヲ亡ス頼義
ノ合戦ヲ前九年ト号シ此合戦ヲ後三
年ト申ナラハセリ義家ヲ八幡大郎ト
号ス源家ノ正嫡ナリ

保元物語

鳥羽院ノ第一ノ御子崇徳

院ト云鳥羽院位ヲ讓リテ崇徳院即
位セラル其後鳥羽院寵愛ノ御子近
衛院ヲ位ニツケマイラセラル崇徳院心
ナラス位ラスヘリテ新院ト号ス其後近
衛院早世シ給リ此次ニ崇徳院ノ御
子位ニツケ申サレシト人皆思フ所ニ鳥
羽院同心ナクシテ崇徳院ノ弟後白
河院ヲ位ニツケ給フ崇徳院イカリニ
ヲサヘテ年月ヲ送ル鳥羽院崩御ノ後

禁中ト新院ト御兄弟合戦ニ及フ此時
ノ關白忠通ハ禁中ニ伺候セララル其弟
元大臣頼長ハ新院へ被參平清盛源
義朝禁中ニ參ル清盛力叔父忠正ト
義朝力叔父為義ハ其子トモヲ引具シ
新院へ參ル其外公家モ武士モ思患ニ
相分レテ兩方へ參合戦ノ時新院方
打負テ新院ハ讃岐國へ流サレ頼長ハ
流矢ニ中テ死ス為義忠正ハ誅セラレ此
物語ヲ記セリ三卷アリ

平治物語 後白河院ノ臣下右衛門督

藤原信頼ト少納言入道信西ト威勢
ヲ争テ不和ナリ信西ハ清盛ト縁者ナ
リ信頼ハ義朝ト交ラムスフ清盛熊野
參詣ノ時留守ノ内ニ信頼義朝同心
シテ信西ヲ打ツ清盛歸京ノ後合戦
ニ及フ信頼義朝打負テ清盛威ヲ振
ヘリ此物語ヲ記セリ三卷アリ

源平盛衰記 清盛并平家一門富貴
繁昌ノ事ヲ記シ頼朝并源氏一類発

テ平家西海ニテ滅亡ノ事ニテ委ク
記セリ四十八卷アリ

平家物語

十二卷アリ盛衰記ノ内

ヲ擇拔テ大躰ノ聞ユル様ニシタル物語

ナリ其次第ハ大方盛衰記ト同シ又少

少相違ノ事モアリ

東鑑

高倉院治承四年源頼朝伊豆

國ヨリ發リシ事ヨリ書初タリ頼朝

ノ子頼家其弟實朝其次藤原頼經

頼朝宗尊親王ニテ將軍六代ノ間ノ

日記ナリ其内ニ北条時政義時泰時

時氏經時時頼時宗執權ノ事ヲモ書

入タリ日本ニテ武家ノ記録ハ東鑑

ヲ初トス治承四年ヨリ以後八十七年

ノ記録也五十二卷アリ

義久記

二卷アリ北条義時執權ノ時

分後鳥羽院ノ作ヲ背ク事アリ逆

鱗アリテ義時ヲ亡サントテ官軍ヲ

アツメ給フ義時カ子泰時ト義時カ弟

時房兩大将ニテ大軍ヲ卒シ鎌倉ヨリ

上洛シ宇治勢多ニテ官軍ヲ打破リ
京へ乱入ル泰時カ子時氏院内へ参後
鳥羽院ヲ隱岐國へ流御子土御門院
ヲ阿波國へ順徳院ヲ八佐渡國へ流シ
奉ル此車ハ東鑑ノ内ニモアレトモ別ニ又
記シテ兼久記ト号ス

保曆間記 保元ヨリ以來源平ノ合戦

頼朝以來關東將軍ノ次第北条九
代ノ間高時ニ至テノ事元弘建武
ノ乱曆應年中尊氏將軍ニ任スル
テノ事ヲイカニモアラなくト記セリニ卷
アリ

太平記 後醍醐天皇元應元年ヨリ

後光嚴院貞治六年ニテ四十餘年矣
乱ノ事ヲ記セリ四十卷アリ
評判四十
卷アリ難太
平記一卷アリ

明德記 將軍鹿苑院殿ノ時山名

氏清山名滿幸謀叛ニ内野ニテ合戦
ス山名敗軍討死ス其物語ヲ記セリ
一卷アリ或介テ三卷トナセルモアリ

應永記

鹿苑院殿ノ時周防ノ大内介

義弘ヨシノリ和泉ノ堀ウヅニテ來テ謀叛ノ聞ヘ

アリ鹿苑院殿数多ノ軍兵ヲ堀ヘ遣

レ義弘ヲ攻亡ス其事ヲ記セリ

北山行幸記

鹿苑院殿家督ヲ其

嫡子勝定院殿ヘユツリ給テ北山ヘ

隠居セラル其山左ヘ行幸ヲ催サル其

記録也

椿葉記

稱光院崩御アリテ御子ナ

レ王代ステニ終オハシントス伏見殿ノ御子多

將軍普廣院殿ノハカラヒニテ御位ニツ

ケ給テ禁中相續ス其事ヲ記セリ一

卷アリ

富士御覽記

普廣院殿富士山見物

ニ駿河國ヘ赴ツキカル其事ヲ記セリ一卷

アリ

永享行幸記

普廣院殿御所ヘ行幸

ノ事ヲ記セリ一卷アリ

旅宿問答

旅宿ニテ種々ノ物語ヲレ

タル事ヲ書集タル書ナリイカニモア

サマナル事トモナレ此内ニ應永ノ比
鎌倉ニテ上^文杖^ス禪秀謀叛ノ事其外
鎌倉持氏ノ事ナト書載タリ持氏
ハ尊氏ノ次男基氏ノ曾孫也

結城戰場

鎌倉持氏ト普廣院殿ト不

和ニヨリテ持氏ノ管領上杖憲實密
密ニ普廣院殿へ内通シ京都ノ兵ヲ呼
タタシ憲實一ツニナリテ持氏ヲ亡ス
持氏ノ子春王安王逃テ結城城へ籠
ル結城氏朝是ヲ介抱ス上杖大軍ヲ

以テ結城ヲ責破ル氏朝打死ニ春王
安王生捕トナル其事ヲ記セリ一卷
アリ

嘉吉記

嘉吉二年普廣院殿ヲ赤

松滿祐ヲノレカ館へ申請テ俄ニ殺シ
奉ル急キ幡川へ逃下ル京都ヨリ山
名細川以下大軍追下テ滿祐ヲ
責破ル其事ヲ記セリ一卷アリ

長祿記

慈照院殿ノ時畠山政長ト畠

山義就ト家督ヲ争ヒ合戦ニ及フ政長

本意テ遂タリ其事ヲ記セリ一巻有

應仁記 慈照院殿ノ時細川勝元ト山

名宗全ト権威ヲ争ヒ京都ニテ合戦

ス諸大小名ニ分テ兩方ヘツク六七

年ノ間合戦止時ナシ洛中洛外

焼亡ス勝負未決ニ宗全病死ス勝元

モホトナク死ス其ツキク大小名皆其

本國へ歸テ方々ニテ兵乱絶ル事ナシ

康富記 中原康富力日記ナリ應永

ノ比ヨリ文明ノ比ニテ公家武家ノ事

ヲ記セリ大部ノ書ナレドモ今二十一巻

ハカリ残レリ

文明一統記 一条大閤兼良ノ作ナリ

應仁乱後文明年中洛中漸静ル

時分ニ記セル書ナリ

親元記 蟬河親元力日記ナリ文明

ノ比ノ事ヲ記セリ

穴大記 萬松院殿ノ時ニ好筑前

守長慶力乱ニヨリテ萬松院殿京ヲ

落テ近江国穴大へ赴キ其所ニテ逝

去せラル其事ヲ記セリ一卷アリ

光源院記

光源院殿元服ノ事ヲ記

タル書一卷アリ又三好筑前守カ宅

へ渡御ノ記録一卷アリ

甲陽軍鑿

甲必武田信玄其子勝頼

カ始末ヲ記セリ

甲乱記

一卷アリ甲州勝頼滅亡ノ

事ヲ記セリ甲陽軍鑿ト相違ノ事

モアリ

信長記

信長一代ノ事ヲ記セリ

北条記

小田原ノ北条早雲ヨリ氏

細氏康氏政氏直ノ始末ヲ記セリ

天正記

豊臣大閣秀吉一代ノ事ヲア

ラクト記セリ

大閣記

秀吉ノ事ヲ記セリ天正記ト

タカヒニ詳畧アリ

此一冊依或人之求記焉一覽之則可知一部之大概耳

向陽林子

寬文七丁未年九月上旬

經典題說

五經

詩書禮記易春秋是也樂經レキリカクヲ加ヘテ六經トス一說トクニ易書詩周禮禮記春秋ヲ六經トス又易書詩周禮儀禮禮記公羊傳穀梁傳左傳ヲ九經トス一說ニ易書詩周禮禮記左傳孝經論語孟子ヲ九經トス此上ニ儀禮公羊穀梁爾雅ヲ加ヘテ十三經トス

詩

經典

昔ハ三千篇アリレヲ孔子是ヲカンカヘシ
ケキヲケツリ邪ヒトヲタ、レウタフテ音律イシ
ニカナヒヨミテ人ノオシヘトナレルヲエラヒ
サタメテ三百十一篇トス此内各義アリ
テコト八十キモノ六篇アリレカレ凡大數ヲ
アケテ三百篇ト号ス風雅頌ノ三ノレ十
アリ風フウハ國風ナリ諸國ノ風俗フウソクヲウタフ
其國國ノフリヲ云ナリ事物コトモノヲ感カシテ人
ノ心ウコクトキハ必オモフコトアリ思フト
キハ必スコトハニアラハル其コトハノフレアリ
アヤアルハ則ウタヒモノナリタトヘハ風ノ
モノニフレテウコクトキハ色イロアルカコトレ故
ニ風トナツク

國風ハ周南召南邶鄘衛王鄭齊魏唐秦
陳檜曹豳合テ十五國ナリ周南ハ文王
ノ德ニヨリテ周公ノオサメタル國ナリ召
南ハ文王ノオシヘニヨリテ召公ノオサメタ
ル國ナリ文王ノ政マツリゴト北方ヨリ南方ノ遠トウ
キサカヒマテ廣ヒロクオヨフユヘニ周南召南
トナツク

幽ミハ文王ノ先祖セン天子トナラサルレキ治ツカメ
タモテル國ノ名也其先祖ノ功ト其國ノ
風トヲ周公詩ニツクリテ世ノオレヘトニ政
ノ法トスルヲ幽風ノ詩トナツク

王風ハ周ノミヤコノ風ノ詩ナリ周ノ世末ニ
ナリテ王ノ徳ヲトロヘタレハ天子ノ雅ノ詩
頌ノ詩ト同シカラスレテ諸侯ノ國ノ風ニ
比ス故ニ王風ヲ列國ノウチニツラヌ此ノ
王トハ周ノ平王ナリ父ノ幽王愚暗ニシ
テユウ卫ヒスノタメニホロホサレテ後平王モ

トノコトク天下ヲタモツコトアタハス都ヲ
東方ヘウツシテハナハタ衰微シケレハ文
王武王周公ノサカリナリシ時代ヲ思ヒ
出シテナケキカナシニテツクレル詩ナ
リ其外ノ十一國ハ三十列國トテ周ノ世ノ

諸侯ノ國

雅ハ正ナリ政ハミツカラタ、レウメ人ヲモ正ヲ
云ナリ故ニ政ハ正ナリタ、レカラサルヲタ、レ
フシテヨクタ、レキニイタルヲ政トス政ニ大ア
リ小アリ小ナルニツリコトヲ云詩ヲハ小雅

經典

三

トナツケ大ナル政ヲ云詩ヲ八大雅トナツク
周ノ朝廷テイノ卿大夫賢人君子此詩ヲツク
リテ政ヲホムルコトアリソレルコトアリイ
サムルコトアリオレユルコトアリナケクコト
アリウレウルコトアリイマレムルコトアリ法
トスルコトアリ

頌ハ周シヨウ頌魯ロ頌商シヨウ頌ナリ頌ハ容ヨウナリ徳ハ
心ニアリテ目ニ見ヘ又モノナリレカルヲ此徳
ヲアラハスヤウニ詩ニツクリテイハヒマツ
リテ神明シメイニマフス此ノユヘニ武王ノトキ文
王ノウ廣ウマツリ成王ノトキニハ文王武王ヲ
マツリタルコトナレハ多オクハ周公ノツクレル詩
ナリ又後チノ世ノ王ノ先祖ヲマツルトキニ
ウタヘル詩モアリ

魯頌トハ魯國ノイノヒノ詩ナリ魯國ハ周
公ノオサメタル國ナリ故ニ聖人ノ教ウシム後世
マテノコリタルコト他國ニコトナリ故ニ孔
子ノ詩ヲアムトキニ魯國ノ頌ヲ四篇ト
リテ周頌ノ下ニノセタリ

商頌ハ殷インノ世ノ詩ナリワツカニ五篇アル

ヲ魯頌ノツキニセタリ古ハ殷ノ詩オホ
シトイヘトモ年代久シケレハオホクウセ
又或孔子ノケツリタ、サレタルモアルヘシ
詩ニ六義アリ風賦比興雅頌コレナリ諸
家ノ説ニ六義ヲ必六ニワカテルコトアリ
トイヘトモ古來分明ナラス朱文公ノ説ニ
八風八國風ナリ雅ハ小雅大雅ナリ頌ハ
周頌魯頌商頌コレヲ三經トス賦比興ヲ
三緯トス經ハタテナリ緯ハヌキナリタト
ヘハケシ布ヲオルニタテヌキアルカコトク詩
ニモタテヌキアリ賦ハレキノフル義ナリ
リノニ、ニ云ヲ賦トス比ハタトフルナリタト
ヘハ日月風雲草木鳥獸ヲ以テ人ニタダ
ズテノ云ナリ興ハ目前ニ見タルモノヲイヒ
オユレ四季ノ時節ヲ興シテ云出レ其次
ニ我ヲモフ心ヲ云ナリ比ニ似テ少シ不同
ナリ、此賦比興ハ風ニモ雅ニモ頌ニモヲノ
ヲノソナハレリ或ハ風ナレ雅ナレ頌ナレ
首ノウキニ賦ニシテ比ナルモアリ興ニシテ
賦ナルモアリ興ニシテ又比ナルモアリ是

朱文公ノ詩ノ説ナリ

詩ヲ周詩ト号スルコトハ周ノ世ノ詩ナレ半
リ詩經ト号スルコトハ經ハツ子ナリ聖人
ノ書ハ天下古今ノアヒタツ子ニオコナフ
ヘキ道ナルユヘニ詩經トナツク五經六經
ノ經ノ字義モ是ナリ又毛詩ト号スルコ
トハ前漢ノ博士毛萇此詩ヲ傳ヘテ傳ヲ
ツクレリ故ニ毛詩ト稱ス後漢ノ鄭玄コ
レヲウケエテ注釋ヲ加フルヲ鄭氏箋ト
云ナリ又魯人申公カ傳ヘタル詩ヲハ魯

詩ト号ス齊人轅固生カ傳ヘタルヲハ齊詩
ト号ス燕人韓嬰カ傳タル詩ヲ韓詩ト号
ス此ノ三家ハ皆前漢ノ人ニテ家家ノナ
カレアリトイヘトモ後ノ世ニアマ子クヒロミ
ラス毛萇カ説獨傳ハリテ今ノ世マテ
流布セリ三家ノ説ワツカニノコリテ諸
書ノウチニアルモ毛萇カ説ト本經文字
題説少シ不同アリトイヘ凡大体ハ三十
同ナシ

詩三百餘篇アリトイヘトモ思無邪ノ一言

經傳 六

ヲ簡カ要ヨウトス思無邪モ詩ノ魯頌ノ語ナリ
ヨコレマナカラシコトヲヲモヘト云説アレトモ
オモヒヨコレマナレトヨムヲヨレトス善キコ
トヲ見キ、テ詩ヲツクリホムレハツクルモ
ノモ善心ヲオコレ其詩ヲ聞クモノモ善心ヲ
感ス惡キコトヲ見キ、テ詩ヲツクリソ
シイリ誠マコトムレハ作ルモノモ惡心ヲヤメ其詩
ヲ聞モノモ惡心ヲオソル其上ニフカクカ
スカニレテ人モレラス詞コトバニモノヘカタキト
コロヲ物ニタトヘ興キョウレテイヘハ教ウチカトナリテ云

モノモ罪ツミナク聞モノハイマレメトスハタニ
テ心ノタ、レキトコロニ皈キスルナリ是ヲ思
無邪ト云コ、ヲモツテ君ニ事ツカヘテハ忠ア
リ父ニ事ヘテハ孝アリ其外夫婦ノアヒ
タ男女ノヤハラキ兄弟ノアヒタ老若ノ
礼義朋友ノ交リ師弟ノ法惣レテ人倫
ノ教ウチカ詩ニスキタルモノナレ此ノ理ヲモツテ
詩ヲウタフトキハ天地ノ心モ感動カレ神
明モ納受ウケスヘレモトヨリ心ノウチニアリテ
身ヲハナレサルコトナリ

書

書ハフ三ナリニルスナリカクナリクカ虞夏商
周シ四代ノ政ヲシルセルユヘニ書トナツクワ
ケテイヘハ虞舜ノ時ノ書ヲハ虞書トナ
ツケ夏ノ世ノヲハ夏書トナツケ商ノ世
ノヲハ商書トナツク商ト殷トツク通用ス世
ノ名ナリ周ノ世ノヲハ周書ト名ツク孔
子ノ書ヲケツリサタムルトキ百篇アリ
秦ノ始レ始皇クカ書ヲヤキホ口ホストキ孔子
ノ子孫其外ノ儒者博士コレヲ深山ニカ

クレ或ハ壁中ニカクス秦ノ世程ホ十クホ口
ヒテノ千漢ノ世ニヲヨニテ書ヲタツスルト
キニ壁ノ中石ノ箱コノナカヨリトリ出セリ
竹ヲアミテ古文ヲモツテカキタレハ知ル
人ミレナリ其ヨミシリタルトコロアツメテ虞
書五篇夏書四篇商書十七篇周書三
十二篇合テ五十八篇ヲエタリ前漢ノ孔
安國コ是ヲ傳ツヘテ傳ツヲツクル上古ノ書ナ
ユヘニ尚書ト名ツク尚ハ上也又秦ノ時ノ
博士伏生セト云モノ漢ノ世マテアリレカ年

九十二ニアマレリ尚書ヲソラニシテクチツ
カラオレヘケルヲ彼壁中ヨリホリ出タ
セル書トカニカヘ合セテ次第ヲ定メタリ
書ノ第一堯典ハ唐堯ノ徳ト政トフレルセリ
虞舜ノ世ノ史官ノ筆ナレハ唐書トイハス
シテ虞書ト云ナリ第二舜典ハ虞舜ノ徳
ト政トフレルセリ典ハツ子ナリ堯舜ハ大
聖人ニテ天下ノアルレナリ其言行三十後
ノ世ノツ子ノ法ナレハ堯典舜典ト名ツク
夏書第一ニ禹貢アリ夏ノ禹王水ヲ治

メ山ヲサタメ河ヲワカチ天下ヲ九州トス二州
ニ山川ノ三千ス千ヲワカチ土産ノレ十
ヲサタメ田ノ上中下ヲワカチ土地ノ差別
草木ノレナニ至マテ書キレル澤ト江ト河
トヲタ、レフレテ海ヘイタラレメ王土千里四
方ノ外ノ諸侯大小國ヲオサメ其外遠キ
四方ノカキリヨリ夷狄マテノ政ヲホトシ
其三ツキモノ、レナヲサタム是ヲ禹貢トス
商書第一湯誓ナリ夏桀無道ニテ天下
大ニクルレシケレハ殷ノ湯王義兵ヲオユレ

樂ヲウタントテ諸侯ヲアツメテ誓テ樂カ
天命ニタカヘル罪ヲ云ノヘタリ

太申ハ殷ノ湯主ノ孫ナリ湯王崩レテ大甲
ハ十ハタ不義ナリケレハ湯王ノ大臣伊尹是

ヲ教訓センタメニ太甲ヲレリソケ桐宮ニオ
キテ諫ム伊尹政ヲオコナフ太甲三年ヲへ

テ伊尹カオシヘニレタカヒケレハ桐宮ヨリ分
ヘテ立テテ天子トス桐宮ハ湯王ノ廟ノアル

トコロナリ此ノコトヲレルセルヲ大甲ノ篇トナ
ツク

周書第一秦誓ハ周ノ武王殷ノ紂ヲウタニト
テ孟津ト云トコロヘイタルトキ諸侯コトクク

アツマリシタカフ殷ノ紂カ悪逆無道ニテ
天下ヲナヤハスウタテカナハサル道理ヲ

イヒテ諸侯ニキカレムルヲ秦誓ノ篇トス
洪範ハ夏禹ヨリ傳ヘ來リテ箕子コレヲ

ルセル武王此道ヲ問トキ箕子コレヲサ
ツク洪範ハオホヒナルノリナリ此篇ニ水

火木金土ノ五行ノ理ヲアカレ天地陰陽
ヲ人ノ身ニソナヘタルコトヲイヘリ又貌ト言

ト視ト聽ト思トノ五ノコトヲレルレテ身ヲ
ヲサムル法トス又食ト^{シヨク}饋ト^ク祀ト^レ司空ト^{コウ}司
徒ト^ト司寇ト^{カウ}賓ト^シ師ト^シノ八政ヲレルレセリ天下
ヲタモツモノ此ノ八政ヲレルヘレ國ヲオサメ
天下ヲタモツハ民ヲヤレナフヲサキトス故
ニ食トモレカラサルヤウニ民ヲス、メテ農
業ヲ^{キヨウ}ツトメレム次ニ財^{サイ}寶^{ホウ}ナクテハカナハカ
ルコトナリ故ニ民ト利ヲアラソハスレテヲ
ノツカラ財寶足^タヤウニセントナラハヲヨリ
ヲヤス用ヲセツスヘレ次ニ先祖ノ恩ヲワスル
ルハ不孝ナリ故ニ祀ヲツ、レムヘレ次ニ土地
ノアル、ハ民スクナキユヘナリ土地ムナレカ
ラサレハ衣食トモレカラス財寶モ土ヨリ出
ツ此奉行^{キヨウ}ヲオクラ司空トス次ニ人倫^{ジン}ノ教
ナケレハ禽獸^{シウ}ニチカレステニ衣食タレハ民
ヲヤレナフ其上ニ君臣ノ義理父子ノ恩
愛男女ノ差別^{カク}兄弟ノ次第朋友ノ交リ
偽リナキヤウニオレユル奉行ヲ司徒トス
次ニ訟^{ウツ}ハ必アルコトナリ訟ヲキ、テ是非^{シヒ}ヲ
ワカテ非ナルモノヲハ法ニアテ盜セルモノ

經典

十一

信ナキモノヲハ罪スヘシ其ワタクシナキ奉
行ヲ司寇トス次ニ諸侯ト諸侯トノ參會
ハタカヒニ賓客トナリ主人トナルアマタ
諸侯王土ニ來ルトキハ王ノタメ客人ナリ
此ノ時宜アヒサツアルコトナリ是ヲ賓ト
ス次ニヤスケレ左アヤウカラシコトヲワスレ
治マレトモ亂レシコトヲワスレ故ニツ子ニ軍
旅ノツナヘアルトキハ俄ノ時ニイタリテ驚
コトナシ是ヲ帥トス右ノ八政ハ大ヒナル政
ノ善キモノナリ

金縢大誥康誥以下ノ十餘篇ハ皆周公且
攝政ノ時ノ政ヲシルモノナリ
書經ニノスルトコロノ堯舜禹湯文王武王周
公ハ三十聖人ナリ皋陶益稷ハ堯舜ノ賢
臣ナリ伊尹傳說ハ殷ノ世ノ大賢ナリ夏
桀殷紂ハ惡人ナリ堯舜禹湯文武ノコト
クナレハ天下オサマリ桀紂カコトクナレハ其
身凶ヒテ天下ヲウシナフ皋陶益稷伊尹
周公ノコトクナレハ君臣合躰シテ其身サカ
ヘ國ヲサマル加様ノアトヲ見テ教トスヘシ

誠トスヘシ然レトモ聖人ノ心イタリテ深ク
至リテ大ナレハ同時ノモノモシリカタレ千
年ノ後ニ出テイカテカコレヲ見シヤサリ
ナカラ聖人ノ心ハ言ニアラハル其言ラレル
セルモノハ書ナリ中トイヒ徳ト云ヒ仁ト云
ヒ誠ト云ヒ敬ト云フハ皆心ノ妙ニシテ書ニ
見ヘタリ天地ノ心見カタレトイヘトモ萬物
ノ形ヲ見テ知ルコトク書ヲモツテ其言ハラ
見言ハラ以テ其心ヲ察セハ如何ソ聖人ノ
心ヲ知ラサランヤ是書ヲ讀モノ、法ナリ
獨尚書ノミニカキラス四書五經ヲヨムモ三
ナ此ノ理ナリ

禮記

四十九篇アリ大學中庸モ元來其少
チナリ古ノ礼法ラレルセリコレモ孔子ノ
アツヌル書ナリ秦ノ始皇カ時ニ儒者是ヲ
カクシテ後亂脱ス前漢ノ戴徳カ傳ヘタ
ルヲ八大戴礼ト名ツク戴聖カ傳ヘタルヲ
小戴礼ト名ツク小戴礼ハスナハ千禮記
ナリ後漢ノ鄭玄コレヲ註シテ世ニオコソフ

曲禮上下篇内則少儀此四篇八大体小
學ノコトヲシルセリモノハ、ヤウモノク、
ヤウ器物ノ取ワタレ衣服ノキヤウ飲食
ノソチヘヤウ人ノ子トナリ人ノヨメタルモノ
ノ行跡老人ヲ養ナヘル法ナトニイタルマテ
シルレノセタリ

月令ハ春夏秋冬ノ次第第七十二侯等ヲ
アラハス年中行事ニ似タリ

樂記ハ音樂ノ道理ヲシルセリ
冠義ハ元服ノコトヲシルレ昏義ハ嫁娶ノ

理ヲシルレ郷飲酒義ハ飲酒ノ礼ノ理ヲ

シルレ射義ハ弓矢ノ理ヲシルレ聘義ハ天子

諸侯ノ間使者往來ノ義ヲシルス其餘ハ多

ク喪葬ノ義祭祀ノ法ヲシルス

王制ハ天子ノ政ヲシルス深衣ハ儒服ノ制

法ヲシルレ儒者ノ行跡ヲシルセリ

其餘ハ本文ニ見ヘタリ

經禮三百曲禮三千ト云コトアリ經礼ハ元

服聲トリ婦トリ喪葬ノ次第祭祀ノ儀

式軍旅ノ法主人賓客ノ時宜乃至六キナ

ル祝義等ノ類カソヘアケハ三百アルヘシ曲
禮ハ委曲ノ禮ナリニコニカニスコレキナルコト
ヲ云ナリ立^{タチ}居フルニイ掃除^{サウジ}給^{キウ}事^シ配膳^{ハイテン}衣
服飲食問^{モン}フツ吞^{ツク}へツ物語スルノ類マテツ
マヒラカニカソヘハ三千ニイタルヘシ其レナシ
ナノ多キコトヲイハシタメニ三百三千トイヘ
リ中庸ニ禮儀三百威儀三千トアルモ是
ナリ其位ヲイハ天子ノ礼アリ后妃^{コウヒ}ノ
礼アリ太子ノ礼アリ諸侯ノ礼アリ世^セ
子ノ礼アリ夫人ノ礼アリ卿大夫ノ礼アリ
リ士庶^{シヨ}人ノ礼アリ貴賤^{キケン}ニヨリテ礼ニ不
同アリ又人倫ニヨリテイハ君臣ノ礼ア
リ父子ノ礼アリ夫婦ノ礼アリ舅姑^コノ
礼アリ長幼^{ヨウ}ノ礼アリ朋友ノ礼アリ師弟
ノ礼アリ不可^ス勝^{カフ}計^テ此礼ハ萬事ニアリ
トイハ庄心ヨリイハ次第三タレサルハ礼ナ
リツレミアルハ礼ナリ人ノ心具^クセル天理ヲ
レナクニシテ事物ノ法トスルモノナリ天ハ
ヲノツカラ上ニアリ地ハヲノツカラ下ニア
リ已ニ上下位カタマルトキハ上ハタツトク下

礼記

卷五

ハイヤレ自然ノ理ノ序アルトコロハ此上下ヲ見テレルヘシ人ノ心モ又カクノユトシ上下タカハス貴賤ミタレサルトキハ人倫タ、レ人倫タ、レケレハ國家ヲサマル國家ヲサマルトキハ王道成就スコレ礼ノサカシナルモノ也

周禮

是ハ周公旦撰政六年ノ間ニツクレル書ナリ天地春夏秋冬ニカタトリテ官ヲタテタリ故ニ六典ト号ス

天官冢宰ハ天子ヲタスケテ百官ヲスヘモロクノ政ヲトリオコナフ天ノアミ子ク物ヲオホフコトク冢宰諸事ヲ管領ス故ニ天ニカタトル冢宰ハ大ナリ宰ハツカサナリ冢宰ノ下ニアマタノ被官アリ 日本ノ太政官中務省ノ相當ニ似タリ

地官大司徒ハ万民ヲオシヘ百姓ヲシタシ三田地ヲカシカヘ耕作ヲス、メ年貢ヲオサメ國家ヲニキハスコトヲツカサトルコノ下ニモアマタノ被官アリ 日本ノ民部省ノ相當ニ似タリ民ノ政ヲツカサトル故ニ地ニカ

タトリテタテタリ

春官宗伯ツウフクハ天神地祇テンシンチキヲツカサトリ祭祀

ヲツカサトリヨロツノ礼義ノコトヲ管領クワンリョウス

此下ニモ被官アマタオホシ 日本ノ神祇カミキ

官ト治部省トノ相當ニ似タリ春ニカタト

リテタテタリ

夏官大司馬ハ天下兵馬ヘイバノコトヲツカサトル

九ノ軍旅ノコトコトククシラスト云コトナシ此

下ニモ被官モツトモオホシ 日本ノ兵部ヘイブ

省諸衛羽林鎮守府將軍征夷將軍等

ニ相似タリ兵馬道ハ馬ノ大ナリトス馬ハ陽

ノ獸ナル故ニ夏ニカタトリテタテタリ

秋官大司寇ハ訴訟ヲ聞キ公事ヲ裁断サイダン

シ盜賊ヲ誡メ獄囚ヲツカサトル此ノ被官モ

又多シ 日本ノ刑部省彈正タンセイ臺檢非違使タイケンヒワイシ

廳ニ似タリ秋ハ鷹殺ノ氣アル故ニ秋ニカタ

トリテタテタリ

冬官大司空ハ天下ノ土地ト人民トヲハカ

リクラヘテイタツラナル空地トキヤウニ

スルコトヲツカサトル此ノ被官モ又オホシ

日本ノ大藏省宮内省ニ相似タルカ冬ノ農
ノヒトアル時ナル故ニ土地ムナシカラサルヤ
ウニト冬ニカタトリテタテタリ

鄭玄カ注本ニ冬ノ官司司空ノ篇本ヨリカク
タリ前漢ノ世ニ是ヲモトムレトモ得コトアタ
ハス故ニ考工記ヲ以テ闕タルヲ補フ考工
記ハ鍛冶番匠車造鑄物師玉磨皮細工
等作り等ノアラユル諸職人ノコトヲシルセ
ルモノナリ後ノ世ニオヨシテ冬ノ官ハ混雜シ
テ五官ノ中ニアリトテ冬ノ官ニ相カサヘ

語ヲヒロイ出シ取アツメテ司空ノ篇トス
是大明ノ柯尚遷カ周礼全經ノ説ナリ
其レ君トシテ人ノ才智ヲハカリ官ヲサツ
ケ位ニホセテユレヲ用ヒハ官位ト人トヨク
相應シテ政務トホホルコトアルヘカラスタ
トハ天道モノ言ハ子トモ四季オユテハレテ
萬物生スルコトハ陰陽五行ノ運行スル故
ナリ君ハ天ナリ臣ハ陰陽五行ナリ天ニラ
ツトリテ徳ヲツクシニヲコタルコトナケレハ官
位アル臣下皆君ノ心ヲクニハカリテ油断

十キコト陰陽五行ノ天ニツイテ万物ヲナ
スカコトレ天遠キニアラス心ノ中ニアリ古ノ
賢君ノ無為ニレテ治ムルト云ハ此理ナリ

儀禮

十七篇アリ是モ周公旦攝政ノ時ニ上ラ

ヘル書ナリ

第一士冠禮ハ男子年二十ニレテ元服ス

ル儀式ヲレルセリ士ハ男子ノ通稱ニテ初

テミヤツカヘレ文官ニモ武官ニモノホルヘキ

モノヲ云ナリ

第二士昏禮ハ士ノ嫁娶ノ儀式ヲレルセリ

礼ハ三十ノ貴賤ノレナアリ故ニ士ノ礼ヨリモ

加マレテタツトクスレハ大夫ノ礼トナル大夫

ヨリノモ貴クスレハ卿ノ礼トナル又諸侯ノ礼

トナル諸侯ヨリモイヨクス、シテタカク加

アレハ天子ノ礼トナル士ノ礼ヲ以テレノ亦

スレハ天子諸侯ノ元服モ嫁娶モ其類ヲ

モツテナソラヘ知ルナリ

第三士相見礼ハ士ト士ト初テ相者スル

儀式ヲレルセリ行クモノハ賓客トナリノムカ

フモノハ主人トナ 凡人ト相アフテ交ルニ
ハミタリニスヘカラス必ス礼義ヲマモリテ
對面スルユトナリ非禮非義ノ交ハ君子ヨ
レトセス

第四郷飲酒礼ハ諸侯ノ大夫三年ニ一度

ツ、賢人才能アルモノヲアラヒアケテ君ニ
ス、ム此時礼義ヲ以テムカヘ賓客トシテ酒

ヲノム其義式言語進退ニイタルマテヨロ
レカラスト云コトナレ酒宴ノ間ニ音楽ヲ奏

レ詩ヲウタヒテ主人ト賓客トノヤハラケル
トコロヲアラハス献酬酢云コトアリ賓客ヘ

先ガカツキヲス、ムルヲ献トス其盃ヲ主人
ヘサスヲ酬トス主人コレヲ飲テ盃ヲアラヒ

又賓客ニス、ムルヲ酢トス其間ニ賓客ノ
子弟主人ノ子弟三十座ニアリテタチフ

ルマイノ時宜アリ

第五卿射礼ハ春ト秋ト禮義ヲ以テ人ヲ
アツメテ學校ニテテテ射ヲ云ナリ大夫

是ヲオコナフコレモ主人ト賓客トアラテ
庭ニアツチヲツキマツ對面ノ始献盃ノ礼

禮典

二十

アリ次ニ音樂アリ詩ヲウタフ次ニ弓ヲ射
ル奉行ヲタテ賓客ニムカツテ弓イヨト云
主人ノ方ノ弓射ルモノ出テ賓客ト相ナラ
ヒ番ノアイテトナル其間ニ種種ノ儀式アル
コトナリ多クアタルトアタラサルトヲ以テ勝
負ヲ定ム射ルコトオハリテ又音樂ヲ奏ス
樂オハリテ又ス、ニテ射ル射ルコトヲハリ
テ又獻盃ノ次第アリ天子ノ的ハ熊ノ皮
ヲハリテ地ヲ白クス諸侯ノ的ハ鹿ノ皮ヲ
ハリテ地ヲ赤クス大夫ノ的ハ布ヲハリテ

鹿豹ヲエカク士ノ的ハ布ヲハリテ鹿豕ヲ
エカク救色ハ三十赤シ

第六燕礼ハ諸侯政務ノヒマアル時卿大
夫ノ奉公ニ勲功アルモノ群臣ト酒ヲ飲テ
ヨロコヒタノレム儀式ナリ是モ主人ト賓客
トヲ定メテ座敷ノ次第盃ノス、メヤウ色
色ノアヒサツアリ飲酒ノ時音樂ヲ奏シ
詩ヲウタウ君モ諸侯モ出テ其座ニアリ
日巳ニクルレハ燭ヲトホシ門外ニ簾ヲタク
第七大射ハ諸侯祭礼ヲオコトハントス時

禮記

卷一

ニ群臣ヲアツメテ弓ヲ射サシメテ其礼仪
ヲ見ル善ク射アツルモノハ祭祀ニアツカリ
アツルコトアタハサルモノハ祭祀ニアツカル
コトナレ的ノツクリヤウ的場ノ射貴賤ノ
位ニヨリテ不同アリモロクノ樂器ヲ堂ノ
東西南北ニナラヘオキ又飲食ノ器ヲナラ
ヘオク君出テ座ニツク時音樂ヲ奏ス是モ
賓客ト主人トヲワカチ定メテ賓客ヘ主
人ヨリ飲食ヲス、ム其間音樂ヲ奏シ詩
ヲウタフ其後弓射ルモノ相ナラシテス、
ニテ的ニムカフサマクノ次第アリ射オ
ハリテ又献盃アリ又音樂ヲ奏ス夜ニ入ト
キハ燭ヲ堂上ニトホシ庭上ニモ門外ニモ篝
ヲタクナリ

第八聘禮ハ諸侯ノ使者隣國ヘユク時ノ
儀式ヲシルセリ毎年一度ツ、タカヒニ使
者往來スルコトモアリ年ヲヘタキ、往來
スルコトモアリ國遠ケレハ一代ニ一度往來
スルコトモアリ諸侯ノ三ツカラ往來スルコ
トモアリ卿大夫使者トナルコトモアリ人

ヲエラフヒテ使者トス次ニ上ルヲエラフ上
ルハソヘ使ナリ次ニ衆ルヲエラフ衆ル
ハ使者ニシタカフ使^{ヤカ}人ナリ音信モノ、目
録ヲウケテ其數ヲアハス巳キ國ノ堺^{サカヒ}ヘ
イタルトキハ隣國ノ主ヨリコレヲ子キラ
路次ノ用意ヲト、ノヘテ飲食ノモノ米薪
藁草ニイタルマテノ車^{クルマ}ニツミテ送ル使者
ヲ三チヒク役人アリ使者來リテ入ルト
キニ君對面スル儀式アリ音信物ヲサ
サクル次第ト奏者披露ノ体トサ、
ノシナアリ其後使者ヲモテナス儀式モ
アリ使者オノレカ國ニカヘリノ君ヘ返車
申ス法アリ

第九公食大夫礼ハ君ヨリ大夫ヲ召シテ
飲食ヲタマフ儀式ヲシルセリ

第十觀禮ハ諸侯ノ秋天子ニ、三ニル礼ヲ
ヲシルセリ春ニ三ニルヲ朝ト云夏ニ三ニル
ヲ宗ト云秋ニ三ニルヲ覲ト云冬ニ三ニル
ヲ遇ト云天子ノ禮儀ナレハ結構ノ次第
アリ

經典
七五

第十一喪服ハ喪ノ礼ヲシルセリ父母ノ
喪君ノ喪祖父母ノ喪兄弟ノ喪兄弟ノ
子ノ喪孫ノ喪養父母ノ喪姑姉妹ノ喪
伯叔父ノ喪從父昆弟ノ喪等ノ一族ノ
服ノ次第ヲシルセリ此篇ニハ孔子ノ弟
子子夏傳ヲ作レリ

第十二士喪礼ハ士タルモノ其父母死シテ
ヨリカリモカリスルマテノ礼儀ヲシル
セリ

第十三既夕ハ士喪礼ノ下篇ナリ父母
葬ラサル先二日夕部ニ哭スル時ト葬ルト
ノ間ノ次第ヲシルセリ

第十四士虞礼ハ士已ニ其父母ヲ葬テ
魂ヲムカヘ飯テ日中ニ殯宮ニ祭リテ父母
ノ魂ヲヤスニスル礼儀ヲシルセリ後ノ世
ノ神主ヲツクル此義ナリ神主ハ位牌ノ
コトナリ

第十五特牲饋食礼ハ士其祖禰ヲ祭ル
礼ナリ祖ハオホチナリ禰ハオヤナリ特
牲ハ一匹ノ豕ナリ祭ノニエトス

経典
七四

第十六少牢饋食礼ハ諸侯ノ卿大夫
其祖禰ヲ廟ニ祭ル礼ナリ少牢ハ羊豕
ヲソチユルヲ云ナリ祭ノニエトス

第十七有司徹ハ少牢饋食礼ノ下篇ナ
リ大夫已ニ祖禰ヲ祭リテ其神ヲ堂ニ
三千ヒキ或ハ室中ニ拜スルノ儀式ヲレ
セリ

儀礼周礼礼記ヲ三礼ト号ス皆後漢ノ
鄭玄カ註ナリ宋ノ朱文公コレヲ考テ
儀禮經傳ヲ集メ編ム元ノ吳澄三禮考

註ヲ作ル明朝ノ柯尚遷三礼ヲ校合テ
儀禮全經周禮全經曲禮全經ト定テ註
ヲ作テ世ニ行フ

礼ノ盛ニ大ナルコトハ三百條ニ至リ
キコトハ三千條ニ至レリ其根本ヲ云ト
キハ一心ノ敬ヨリ出テ自然ノ天理ヲソ
クニ宜クシテ分チタルモノナリ故ニ母
不敬ノ三字ヲ礼ノ根元トス朱子コレヲ
天理ノ節文人事ノ儀則ナリト云ハ本ヨ
リ理ハ一ナレトモ様様ノ節アリテ人ノ行

フ所皆法ニカナフトキハ又一理ニ散スル也
儀礼ノ士冠礼士婚禮ニテ類ヲ推シノホ
ストキハ卿大夫諸侯天子ノ貴キニ至ル
ニテナソラヘ知ルヘキノ三ニアラス其外ノ
諸篇モ亦如此ト知ルヘシ

樂經

黃帝堯舜禹湯文武王三至ルニテ代々
ノ樂ヲ記シ宮商角徵羽ノ五音ヲ六律
六呂ニ合セ是ヲハヤシタツルニ金石絲竹匏
土革木ノ八ノ音ヲ以テス此樂能相調
フトキハ鬼神モ感應レ鳥獸モ來リ舞
況於人倫乎故ニ風ヲ移レ俗ヲ易ルハ樂
ヨリ善ハナシトイヘリ此樂モ人ノ心ノ和
ヲ本トス故ニ礼ト相對メ禮樂ト稱ス樂經
モ孔子ノ正シタマヘル書ナリ秦始皇カ時
ニ紛失メ周禮禮記左傳等ノ諸書ノ中
ニ散在メ見タリ史記漢書以來ノ歷代
ノ禮樂志ハ皆後世ノ樂ヲ記セルモノナリ

周易

正義ニ易ノ字ニ三ノ說アリ一六易簡ノ

義ナリ是ハ煩カラス事ニケカラス元來
無造作ナル所ヲ云天地ノ道ハ自然ノ理ニ
シテ安ラカニ何ノ造作モナシ是易簡ノ
義ナリ一ニハ變易ノ義也アラタマリカ
カシク云寒來暑往年月日時ノ移リ換リ
陰陽五行ノ變化スルヲ云一ニハ不易ノ義
也天地ノ道常住ニメ古今同キ理ヲ云故
ニ易ノ一字此三義ヲ含リ此理ヲ教ル書
ナレハ易ト名ク

朱子本義ニハ易ノ辭ハ周文王ト周公トノ
コトハナルユヘニ周易ト名ク卦ヲ作ルコトハ古
ノ伏羲ノ作ナレトモ其詞ナシ一ヲ陽トシ
二ヲ陰トス 乾 坤 ノ類是ナリ孔子
又文王周公ノ詞ヲ序テ傳ヲ作レルヲ
十翼ト名ク故ニ易ハ四聖人ノ述作ナリ
交易變易ノ義アルユヘニ易ト名ク天ハ上
地ハ下ナレトモ天氣降り地氣騰ル水ハ
火ニ對シ山ハ澤ニ對シ陰ト陽トノ相立
ノ類是交易ナリ春秋ノオシ移リ寒暑
ノ相替リ一氣ヨリ物ヲ生シ生スル物

又滅ス吉凶禍福進退去就ノ類ニ至ルニ
テ皆變易也此書天地陰陽ヲ明シ人
事ノ吉凶ヲ示シ萬物ノ理ト象ト數トヲ
明セリ故ニ易ト名ク正義ノ三說ノ義ニ
アラズ但變易ノ義ハ不同十キニヤ

昔伏犧ノ時河水ヨリ龍馬出ツ其背
ニ河圖ノ紋アリコレニカタトリテ始テ八
卦ヲ作レリ天地陰陽萬物ノ象數盡
ク備ラスト云コトナシ八卦ヲ疊三重子テ
八八六十四卦トス每卦ニ六爻アリ六ヲ

六十四ニ乘メ三百八十四爻トス能通スル
キハ萬事ニ遍クカナフ也

伏犧一畫以前ハ天地ノ始ナリ人ノ心ノ上
ニテハ寂然不動也喜怒哀樂未發ノ
中也一畫以後八卦トナリ六十四卦トナ
リ三百八十四爻トナルハ天地開ケ陰陽
分レ万物生スル所也人ノ心上ニテハハ
感メ天下ノ事ニ通スル也喜怒哀樂發メ
和トナリナリ故ニ心ノ妙ヲ名テ易トス程
子ノ變易メ道ニ從フトイハルハ是也天地ノ

間明白ナル物日月ニ過タル八十レ古人始テ
字ヲ作ルトキニ此理ヲ知テ日ノ下ニ月ヲ
加ヘテ易ノ字トセリ

昔ハ龜ヲ燒テ其甲ノサケメヲ見テ吉凶ヲ
占フ是ヲ龜卜ト云又著者ヲ五十本作リ

一本ヲ除キ四十九本ヲ指ノマタニハサリ
テカソフル次第アリ其類ヲ以テ卦ヲ作

リ是ヲ周易ニ考テ其詞ヲ見テ吉凶禍
福ヲ占フ是ヲ筮占ト云龜卜ハ後世ニル

モノ稀ナリ人車ニオヒテ自ラ決定レカ

タキ疑アルトキハ天命ニ任テ定ニク
著ラ立テ占フ故ニ朱子モ易ハト筮ノ書

也トイヘリ

一三五七九ハ天ノ數也二四六八十八地ノ
數也天ノ數二十五地ノ數三十天地ノ數

合テ五十五也五ハ中數ニテ是ヲ除キ五
十ヲ大衍ノ數トス是著者ノ數也

是ヲ人
ヒロムレハ百千万ニ及フヘレ

本卦ヲトルコトハ本經ニモ王弼カ註ニモ正
義ニモ程子ノ傳ニモ朱子ノ本義ニモ不見

之但火珠林納甲等ノ末書ニアルコトニヤ賢
人君子名儒ノトラサル所ナリ命明ノ筆
年並モ亦同

春秋

魯國ノ史記ノ名ナリノ事ヲレルスニハ其年
ノ其月ノ其日何事アリト書クコトナリ
日ノ少ヘ二月ヲレルシ月ノ上ニ時ヲレルス時
トハ春夏秋冬ヲ云ナリ春正月夏四月
秋七月冬十月ト書ク類ナリ自餘ノ月
モ又レカリ時ノ上ニ年ヲレルス是史官ノ

筆ヲトリテ年ヲ編法ナリ春ヲ云ニ夏
ヲカ子秋ヲ去テ冬ヲカ子タリ故ニ史記
ノ名ヲ春秋ト云魯國ノ史官ノ本ヨリレ
ルレオキタル書ナリ然ルヲ孔子是ヲ見
テケツリタハストコロアリ書アラタムル
所アリ書クワフル所アリ自餘ノ經ヲ
ハ子游子夏助筆スルコトアレトモ春秋ニ
イタリテハ孔子獨三ツカラ筆レテ弟
子門人一字モ増損スルコトアタハス故ニ春
秋ハ聖人ノ一筆ノ書ナリ

魯國ハ周公旦封ラレタル國ナリ周公周ノ都ニ井テ天子ヲ輔佐シ其子伯禽ヲツカハシ魯國ノ主トス伯禽十三代ノ孫ヲ隱公トス隱公即位ノ元年ハ周ノ天子平王ノ四十九年ニアタレリ隱公元年ヨリ哀公十四年マテ二百四十二年ノ間ノコトヲ春秋ニレルセリ隱公治世十一年桓公十八年莊公三十二年閔公二年僖公三十三年文公十八年宣公十八年成公十八年襄公三十一年昭公三十二年定公十五年哀公十四年ヲ加ヘテ合ニ千二代ノ間二百四十二年ナリ魯國代々ノ君オホキ中ニ隱公ヨリ書ハレムルコトハ杜預カ説ニハ隱公年老テ桓公ニユツルハ隱公ハ賢君ナリ平王德ヲ脩メ天命ヲタモキ隱公又周公ノアトラノヒロメハ文王武王ノ道ヲ再興シ天下ヲヤスニシテ國家ヲ保ツヘキコトヲ思ヒテ孔子是ヲ春秋ノ始トスト云ヘリ胡氏傳ニハ杜預カ義ヲ用ス隱公ヲソレリテ愚ヲタカサシタ

春秋

卷一

又ニ是ヲ始トス。隱公已ニ魯ノ君ナリ。コト
ハルヘキヲ早クコトハリテ。乱ヲオサムヘキ
トコロニ位ヲ弟桓公ニユツラントスト云トイ
ヘトモ。眞實ハユツラス。羽父ト云。臣ニタハカ
ラレテ。隱君セサル。先ニ殺カレ。桓公ハタレ
テ。兄ノ位ヲ奪ヘリ。隱公ノマトヘルヲソシ
リ。羽父カ悪ヲニクミテ。イマレメノ教トセ
ンタメニ。隱公ヨリカキハレムト云ヘリ。

春秋ノオレヘハ。勸善懲惡ヲム子トス。善
ヲハホメテ人ヲス。メ惡ヲユラシメテ人ヲ

イマレム。皆萬代ノ教ナリ。其時ニアタリ
テ。富貴ニシテ善キモノクヤウナレトモ。其
心底惡ケレハ。是ヲ察シテレシテソシ
リ。其時代ニテハ。時ニアハス。賤モノナレト
モ。其義アル所アレハ。是ヲ知リテ書レ
テホム。故ニ春秋ニ書セル一字ノ褒義ハ。王
公ノ榮花ニモ。サレリ。一字ノソシリハ
市町ニテ打擲セラレ。耻ヨリモオトレリ
ト云ヘリ。

君モ徳ナケレハ。君ヲソシリ。臣モ道ナケレ

ハ臣ヲソレル父モ教ヲ失ナハハ父ヲソレリ
子モ不孝ナレハ子ヲ謗ル兄弟夫婦明
友ノ間モ又此ノコトレ皆人倫ノ教訓ナリ
或ハアラハレサル愆ヲハ人レラスカクセル
盜賊ヲハ世ニ知ラス春秋ニハカクセル所ヲ
アラハレ知ラサル所ヲ察テ筆記スル故
ニ乱臣賊子是ヲ見テ大キニ畏ルナリ
乱臣トハ君ニソムク臣ナリ賊子トハ不孝
ノ子ナリ或ハアラハレ又善ハイヨクウツ
モル、モノナリタレカ是ヲ賞セシヤ春

秋ニ其カスカナル所ヲオレヒロメテアケル
トキハ善アルモノハ必アラハル、也是シ微
頭シ闡セシ幽ト云

書シスコトアリ書シサルコトアリ是ヲ書法
トス其凡ホ例定レレル体アリ事オホケレ
ハ本文ヲ考カヘシ此凡ホ例ハ周公ノ礼法ナ
リ本ヨリレルセル所ヲ孔子アラタメテ
書シカユルコトアリ是ヲ變シ例トス又書
法同シヤウナレ凡義ヲトルコト不同アリ
是ヲノ類三十聖人ノ筆削サナリヨク讀モ

ノ是ヲ知ルヘシ

元年正月ト書セルコトアリ一年ト云ハス

シテ元年ト云ヒ二月ト云ハスシテ正月ト

云フ是春秋ノ筆法ナリ天地ノ徳ヲ乾

元坤元ト云ハ元ハ善ノ長ナリ則仁ナリ

正ハタ、シキナリニツカラタ、シフシテ

人ヲタ、シフスルヲ政ト云人君即位ノハ

シメノ年ヲ一年ト云ハスシテ元年ト云ハ

善ヲ本トシテ仁ヲホトコサシタメナリ年

ノ始ノ月ヲ二月ト云ハスシテ正月ト云ハ

身ヲタ、シフシテ政ヲ世シメシタメナリ日

ノ始ヲ一日ト云ハスシテ元日ト云モ元年

ノ元ノ字ノ義ナリ故ニ春秋ニ元年春

王正月公即位トシルセルコトハ元年八年

ノ始ナリ春ハ時ノ始ナリ王ハ天命ヲ受

ル始ナリ正月八月ノ始ナリ公即位ハ二國

ノ始ナリ是五ノハシメナレハ五始ト名ツク

オノレヲタ、シフスルコトヲ專要トスル也

時ヲ書シ月ヲ書シ日ヲ書スコトアリ或

ハ時ハカリ書シテ月日書サルコトアリ或

八時ト月トヲ書シテ日ヲ書サルコトアリ
或ハ月日ヲ書シテ時ヲ書サルコトアリ或
月ハカリ書シテ時ト日トヲ書サルコトア
リ或ハ朔ヲシルレ朔ヲ書サルコトアリ此ノ
コトキ書法ニヨリテ喪^{ホウ}貶^シヲタツルコトハ公
羊^{ヤウ}傳ノ説ナリ又早^{ヒテリ}スト書スハ五穀ノワ
サハイ有ユヘナリ不^ス兩^フトシルスハ久クフラ
サレ^レ五穀ノワサハヒヲナサ、ル時ノコトナ
リ^ア雪^{エニヨク}トシルスハ兩^フヲイノリテシルレアル
時ノゴトナリ^ハ柝^トレトモ兩^フヲサレハ雪^ト

書サス早トシルス或ハ君トシテ民ノ早ニ
アエルヲカナシヌル心アレハ雪^ト書ストモ
イヘリ此三ハ同コトナレトモ其書法不
同ナルハ義ヲ取テ例ヲ立タルナリ此ス
コレキナルコトヲ以テ春秋一部ノ中ニ
種種ノ才ホヒナル事アリト知ヘシ
春秋ノ終ニ獲麟^{クワクワ}ト云コトアリ哀公十
四年ノ春大野ト云所へ狩^カレテアヤレキ
獸^ケヲエタリ魯ノ大夫叔孫^{シクソン}カシタノ車^{ニヤ}子
鉏^シ商^{ヤウ}ト云モノ此獸ノ足ヲクシイテ取^{トク}來^キ

ル如何ナル獸ナリト云名ヲ知ル人ナシ孔子
是ヲ見テ麒麟ナリト云麟ハ奇瑞ノ仁
獸ニテ聖人王者ノ時ニアラハレ出ルモノ
也今出テ時ニアハス奇瑞ノレシナクト
ラヘ殺サル孔子是ヲ感シテ春秋ヲ作
ラント思フ心オコリ獲麟ノ年ヨリ上二
百四十二年以前ノ隱公元年ヨリ書始
ム筆ヲ獲麟ニ起スト云是ナリサテ其
書トニル所ハ歎キ感シテ思フトココハ
獲麟ヨリ起ルユヘニ則是ヲ終トス筆ヲ獲
麟ノ一句ニ絶ト云ハ是ナリ是春秋始終
ノ義ナリ獲麟ヨリ三年ノ後四月孔
子卒去セリ

胡氏傳ノ説ニハ物ノ相感スルハ古今ノ理
ナリ伏犧易ヲ作レハ龍馬出ツ虞舜
樂ヲ奏スレハ鳳凰來リ百獸舞フ孔子
春秋ヲ作レハ麒麟出ツ天ト人ト感應
ノ理レシアラスト云コトナシ聖人ハ天地
ト徳ヲ同シフシ陰陽ト化ヲヒトシフス然
ハ麟ノ出ルハ聖人ノタヌニ出タルナリ其

時代道ヲコナハレサルコトヲ感シ王者ノ出
サルコトヲ歎^{オキ}テ獲麟ノ一句ヲ以テ後世
ニシメレ春秋ノ終トス

左傳 公羊傳 穀梁傳

此三傳ハ皆春秋ノ註ナリ魯國ノ史官
左丘明^{サキウメイ}カ傳ヘタルヲ左傳ト号ス左丘明
ハ孔子同時ニテ春秋ヲ傳授スト云ヘリ
齊國ノ人公羊^{ヤウ}高^{カウ}カ傳ヘタルヲハ公羊傳ト
号ス魯國ノ人穀梁^{コクリヤウ}赤^{セキ}カ傳ヘタルヲハ穀梁
傳ト号ス公羊穀梁ハ三ナ子夏門流ノ

人ナリ是ヲ春秋三傳ト名ツク此外ニ
宋ノ胡安國^{コアンクウ}三傳ノ異同ヲカンカヘ孟子
董中舒^{チュウシュ}程子等ノ說ヲ引合せテ義理
ヲ以テ春秋ヲ註ス是ヲ胡氏傳ト号ス
皆世ニオコナハル

孝經

孔子ノ弟子子曾子^{ソウシ}孝行フカキ者ナリ
故ニ孝ノ道ヲ問フ孔子其問コトヲヨミ
シテ孝ノ大ナルコトヲノヘ天子ノ孝諸侯
ノ孝卿大夫ノ孝士庶人ノ孝ニ至ルテ

ヲ説聞トクレム是ヲ書ヒレテ孝經ト名ツク漢ノ孔安國アノク其傳ヲ作りテ世ニヒロム又唐ノ玄宗ノ註セルアリ是ヲ御註孝經ト号ス

爾雅

此書ノ第一釋詁ハ周公ノ作ト云ツタフ古今ノ語ノ異同ヲ釋シセリ其後子夏カ輦トカラ相ヒツイテ編輯ス人倫ノ名天文地理ノ号樂器カクキ器財サイノ名草木鳥獸ノ号ニ至ルマテ書キアツクメテ古ノ其名

ハ今ノ此ノ名ナリ古ノ其字今ノ此字ナリト註釋ス五經ヲ讀ヨミ習シフモノニ字義ヲ知ラレムルハ爾雅ノ教ナリ後ノ世ニ小爾雅廣雅埤雅爾雅翼等ノ書ハ皆是ニモトツケリ詩ヲ学ブフモノ多ハ鳥獸草木ノ名ヲ知ルトイヘルハ此義ナルヘシ

右一帖應或人之求以投之且
訓示兒童

羅山子

文化十三丙子歲暮冬

新町西口砂場

攝陽書林多田勘兵衛

